

五体不満足を知る意味

レントゲンではどこも悪くないと診断された右手中指の痛みを改善するため、ゴッドハンドと評判の針治療を受けている。元外科医の先生が、なぜ針治療に携わるようになったかは知らないが、治療中に話してくれる痛みの原因や体の仕組み、コロナをはじめとするウイルスの構造などは私の見識を広げてくれ、漠然とした不安を取り除いてくれる。

だが、患者が多く予約を取るのが困難で、次の治療は三ヶ月後も当たり前。情けないことに、その間に60代後半の体はどこかしら不調をきたし、このところ体力に自信がもてなくなった。そんな私に、先生がおっしゃった言葉が「人は誰も五体満足な人なんていませんよ。五体不満足が普通なのです。私たちの体は無数の神経、血管、細

胞でつくられているので、ちょっとしたことが原因で不調をきたす。悩むことなんてありません。五体不満足を受け入れることで、心の健康を守り、怖がらず体の不調と向き合えますよ」。

『五体不満足』は、両手両足にハンデをもつ武洋匡^{おと}さんの書いた本の題名で、ベストセラーとなった。`障害は不便だが、不幸ではない、との彼のメッセージを、改めて自分自身に置き換え考えてみると、体の不調は当たり前と受け止め、日々を楽しく過ごすことにウエイトを置くべきではないかと思うようになった。針で体の不調を治し、先生の話が心を癒してくれる。まさにこれこそが、ゴッドハンドたる所以なのでしょう。出会いに感謝です。



山橋由貴子 [やまはしゆきこ]
(公社)「小さな親切」運動本部
専務理事兼事務局長

神奈川県横浜市出身。茅誠司初代代表の在任時に入社し、親切運動ひとすじ40数年。ダジャレと愛犬の「イヴちゃん」(ミニチュアシュナウザー)をこよなく愛する。好きな食べ物は「うなぎ」。

イラスト：安彦麻理絵 [あびこまりえ]
漫画家・エッセイスト。山形県新庄市出身。
女性の本音を赤裸々に描く作風が人気。